

20世紀の靴 ③

皮革産業資料館常任委員 福原 一郎

フォーマル・シューズ

明治の初め文明開化が叫ばれて欧米の文化がとり入れられ礼装も紋付袴に代って西洋式のものを用いられるようになった。紳士は大礼服やフロックコートに七ツはぎや深ゴムの靴を履いた。婦人は裾の長いドレスに編上やボタン付中ヒールのブーツを履いていた。

20世紀になってフォーマル・ウエアの型式も変り、19世紀末に生まれたタキシードが欧米で広まり、燕尾服、モーニングと共にすべて出揃った。

夜間の正礼装である燕尾服は白の蝶ネクタイで2本の側章が付いたスラックスをはき靴は黒エナメル（パテントレザー）のプレーン紐付短靴（オックスフォード）が公式の儀式や晩餐会に用いられる。またリボンの付いたオペラパンプを用いることもある。

タキシードは黒の蝶ネクタイで1本の側章付のスラックスをはき前にグログランのリボンを付けたオペラパンプ、または燕尾服と同じ紐付短靴を用いてもよい。

昼間の礼装であるモーニングコートは、一般に式服にも用いられ縞のスラックスで裾はモーニングカットという斜めにカットされたものである。靴は黒のキッドやカーフを用いた一文字飾内羽根式の短靴を用いるのが正式だが、プレーンで外羽根式でも良く、またスリッポンやバックル付のモンクタイプ、くるぶし丈のブーツなど用いても良い。

紳士のフォーマルシューズの製法は、

マッケイ、セメント、グッドイヤなどでうすい底でこばを張り出さない仕立のものが良く、模様付のラバーソールなどは好ましくない。

婦人のフォーマルシューズは、20世紀になって編上のブーツは次第に姿を消し、イブニングドレスや、ウエディングドレスにハイヒールのパンプやサンダルが用いられる素材は、キッドやカーフ。そして、ドレスと共布を用いることもある。

パーティ用などはファッション性のあるサンダルやミュール、ブーツなども用いられる。



〔フォーマルウエア・ルールブック〕より
日本フォーマル協会提供

燕尾服用
黒エナメル紐付短靴



タキシード用
オペラパンプ



モーニング用
一文字飾紐付短靴



婦人ドレス用
ハイヒールパンプ

